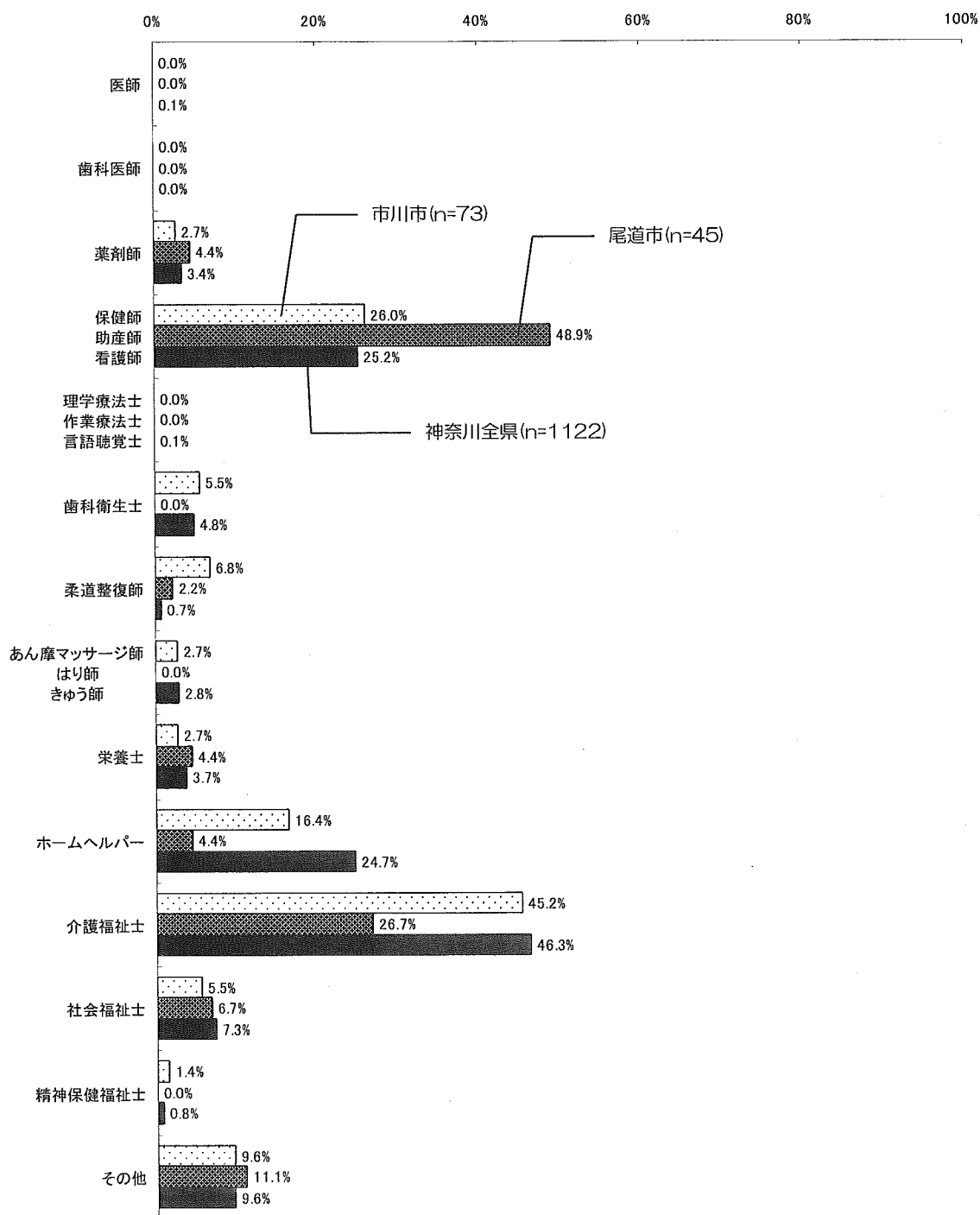
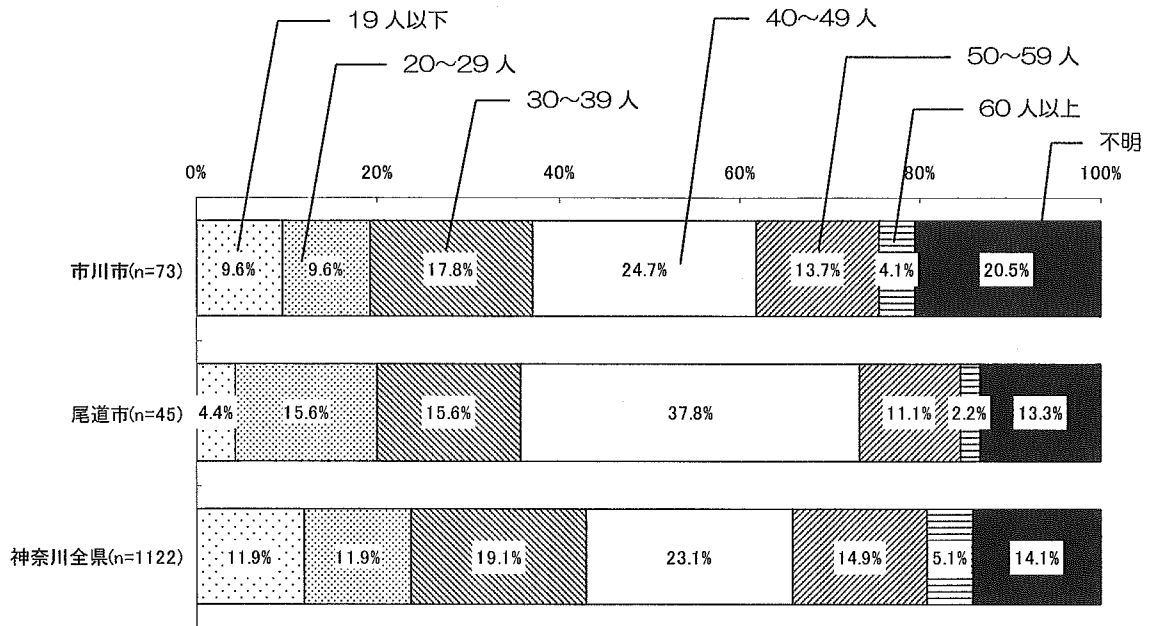


F 6 介護支援専門員以外の資格【複数回答】



介護支援専門員の基礎資格は、市川市は神奈川県と同様、介護福祉士が45.2%と最も多く、次いで看護職が26.0%である。ホームヘルパーが16.4%で、介護職種を合わせると61.6%と6割を超える（ホームヘルパーと介護福祉士を同時に持つ場合もあるので実際は、それより低い）。歯科衛生士、柔道整復師、あんまマッサージ師等が数%見られる。

F7 担当利用者数（各要介護度別利用者数の合計）



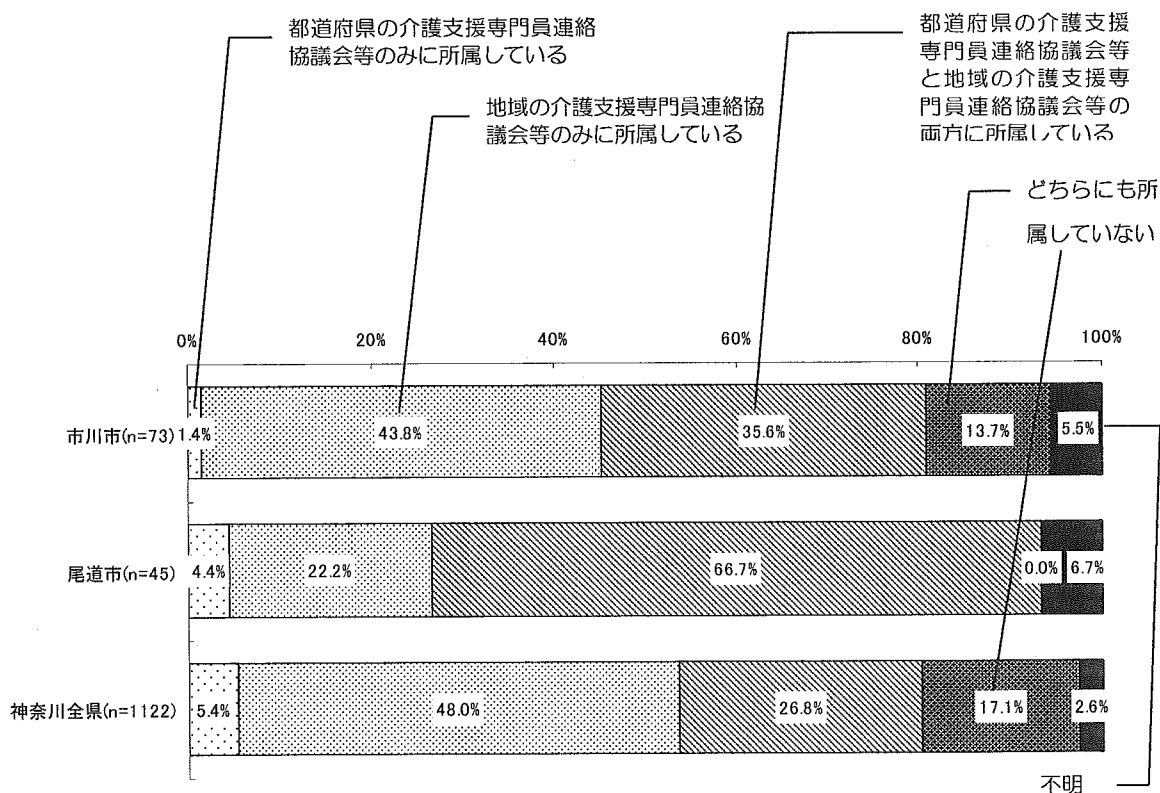
担当利用者数は、40人～49人が最も多く24.7%であり、他の利用者数も、ほぼ尾道市や神奈川県と同数である。

F8 介護支援専門員連絡協議会等への所属状況

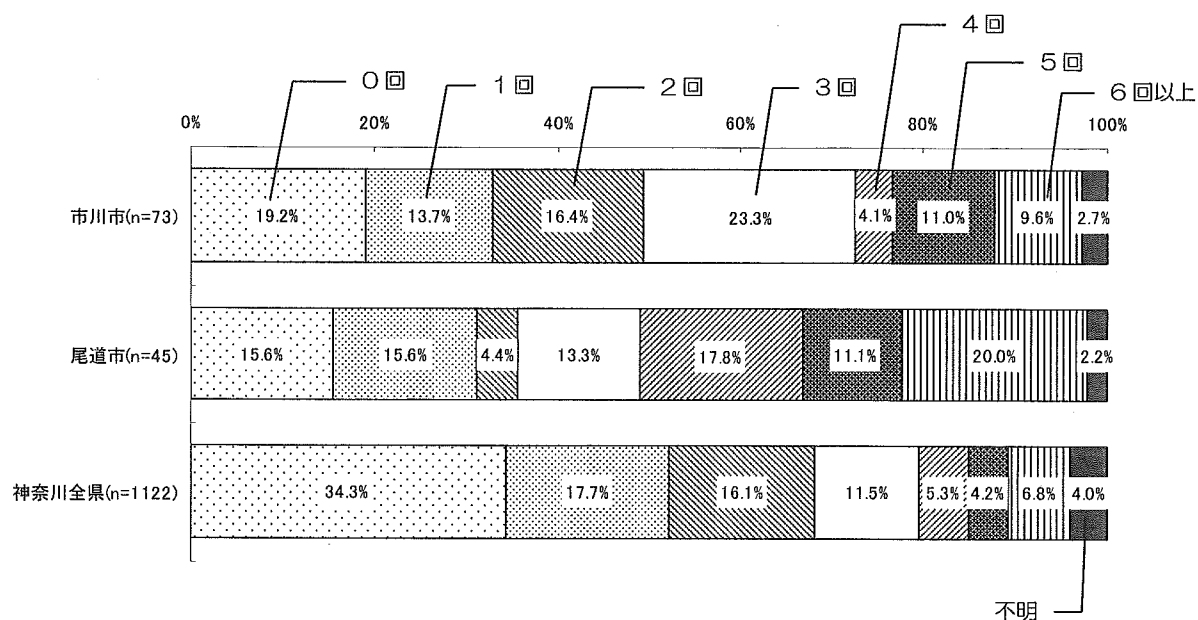
市川市は、神奈川県と同様に、県の介護支援専門員協議会には参加せず、市の介護支援専門員連絡協議会にのみ参加している介護支援専門員が 43.8%と半数近くを占めているが、どちらにも所属していない介護支援専門員も 13.7%存在する。

尾道市では、都道府県の介護支援専門員連絡協議会等と地域の介護支援専門員連絡協議会等の両方に所属している介護支援専門員が 66.7%であり、大半を占めている。また、どちらにも所属していない介護支援専門員はいない。

このように、尾道市の介護支援専門員は専門職団体による組織化率が非常に高く、市川市は、尾道市と異なっている。



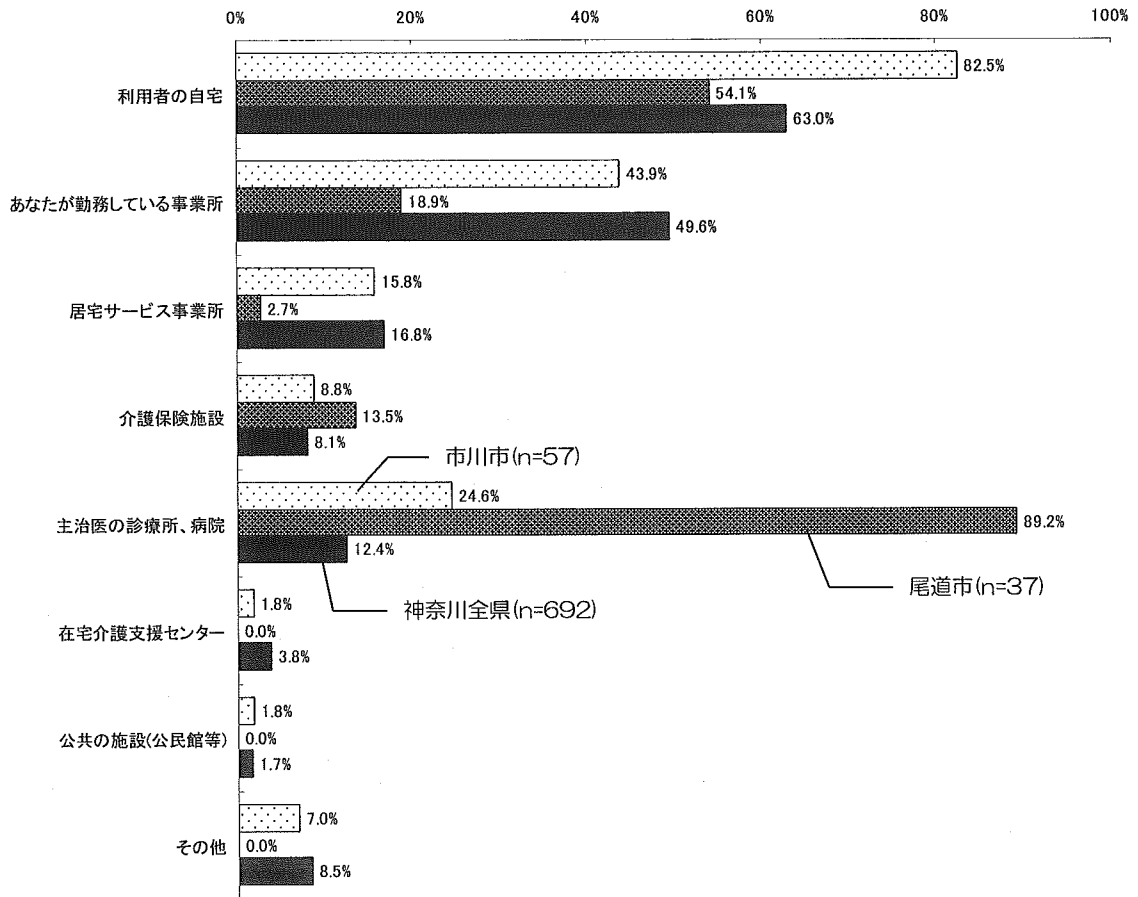
問 1 サービス担当者会議の開催回数（平成 17 年 10 月中）



市川市における平成 17 年 10 月の 1 か月間のサービス担当者会議開催回数は、3 回が最も多く 23.3%である。次いで 0 回が 19.2%、2 回が 16.4%、1 回が 13.7%と続く。

一度も開催しなかった介護支援専門員が 19.2%と 2 割弱であり、8 割の介護支援専門員が 1 ヶ月に 1 回以上のサービス担当者会議を開催している尾道市より、神奈川県に分布は近かった。

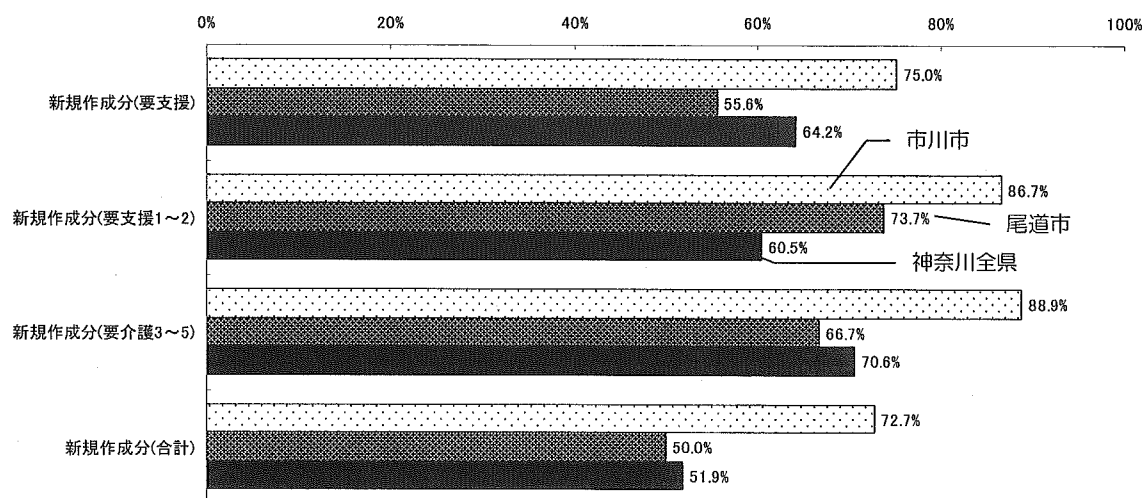
問 2 サービス担当者会議の開催場所（平成 17 年 10 月中）【複数回答】



注) 問 1 で「1 回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

市川市の介護支援専門員の 82.5% は、利用者の自宅でサービス担当者会議を開催している。次いで自分の勤務する事業所 43.9%、主治医の診療所、病院 24.6% となっている。主治医の診療所、病院でサービス担当者会議を開催している介護支援専門員は、神奈川県 の 2 倍である。

問3 サービス担当者会議において検討されたケアプランの数(平成17年10月中)
 (1) 新規作成されたケアプランの全数をサービス担当者会議で検討した回答数



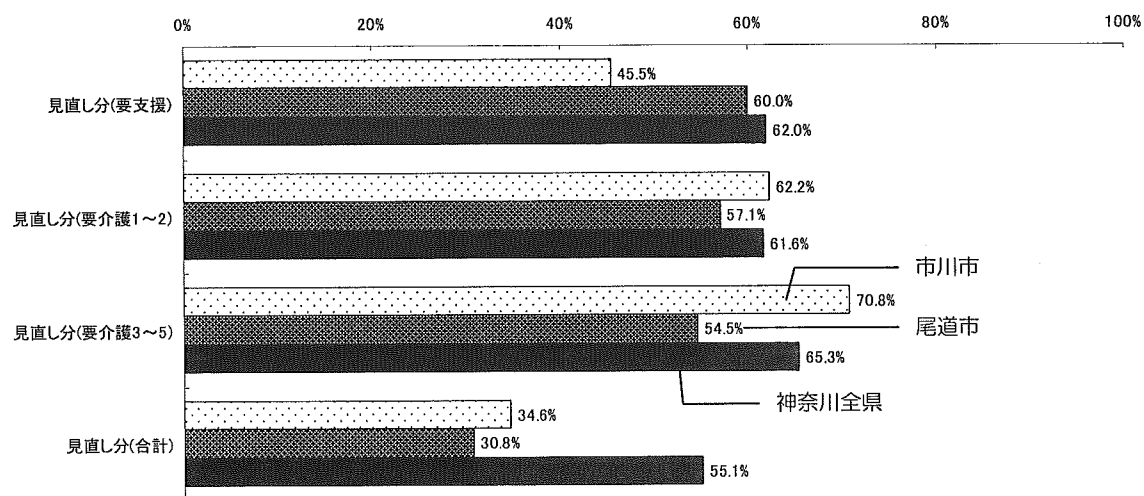
注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

注) 平成17年10月中に新規作成ケアプランがあり、かつそれらのすべてについて当月および翌月開催のサービス担当者会議で検討した回答の割合を示す。

注) 「不明」のあるケースは計算から除外した。

平成17年10月中に新規作成のケアプランがあり、その全数をサービス担当者会議で検討した介護支援専門員の割合は、新規、見直しとも各要介護(要支援)度において、尾道市と神奈川県は55~70%前後で大きな差はなかったが、北上市では72~89%であった。

(2) 見直されたケアプランの全数をサービス担当者会議で検討した回答数



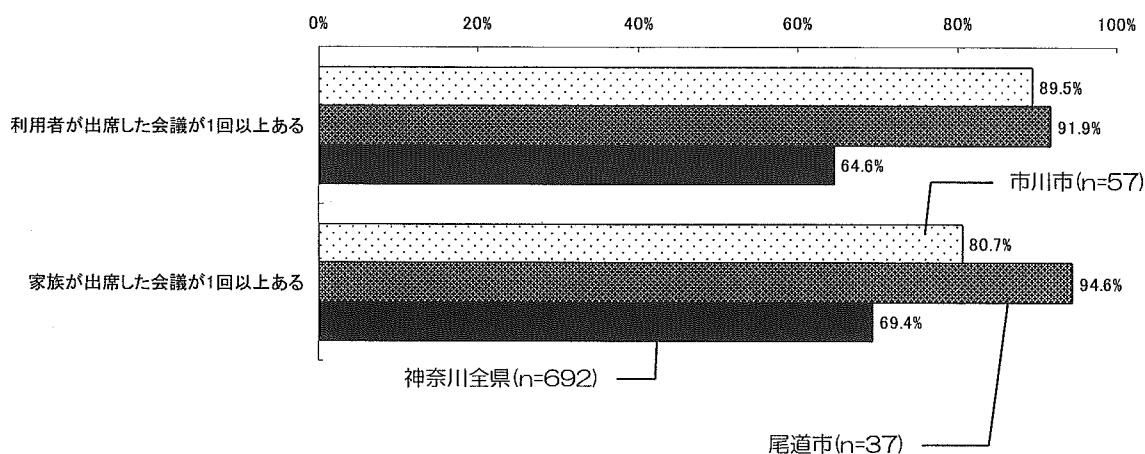
注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

注) 平成17年10月中に見直しケアプランがあり、かつそれらのすべてについて当月開催のサービス担当者会議で検討した回答の割合を示す。

注) 「不明」のあるケースは、計算から除外した。

平成17年10月中に見直しのケアプランがあり、その全数をサービス担当者会議で検討した介護支援専門員の割合は、要介護度3~5の中重度者では、尾道市、神奈川県より高く、70.8%であった。一方、要支援では、45.5%と尾道市、神奈川県より15%低かった。

問 4 利用者および家族が出席したサービス担当者会議（平成 17 年 10 月中）



注) 問 1 で「1 回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

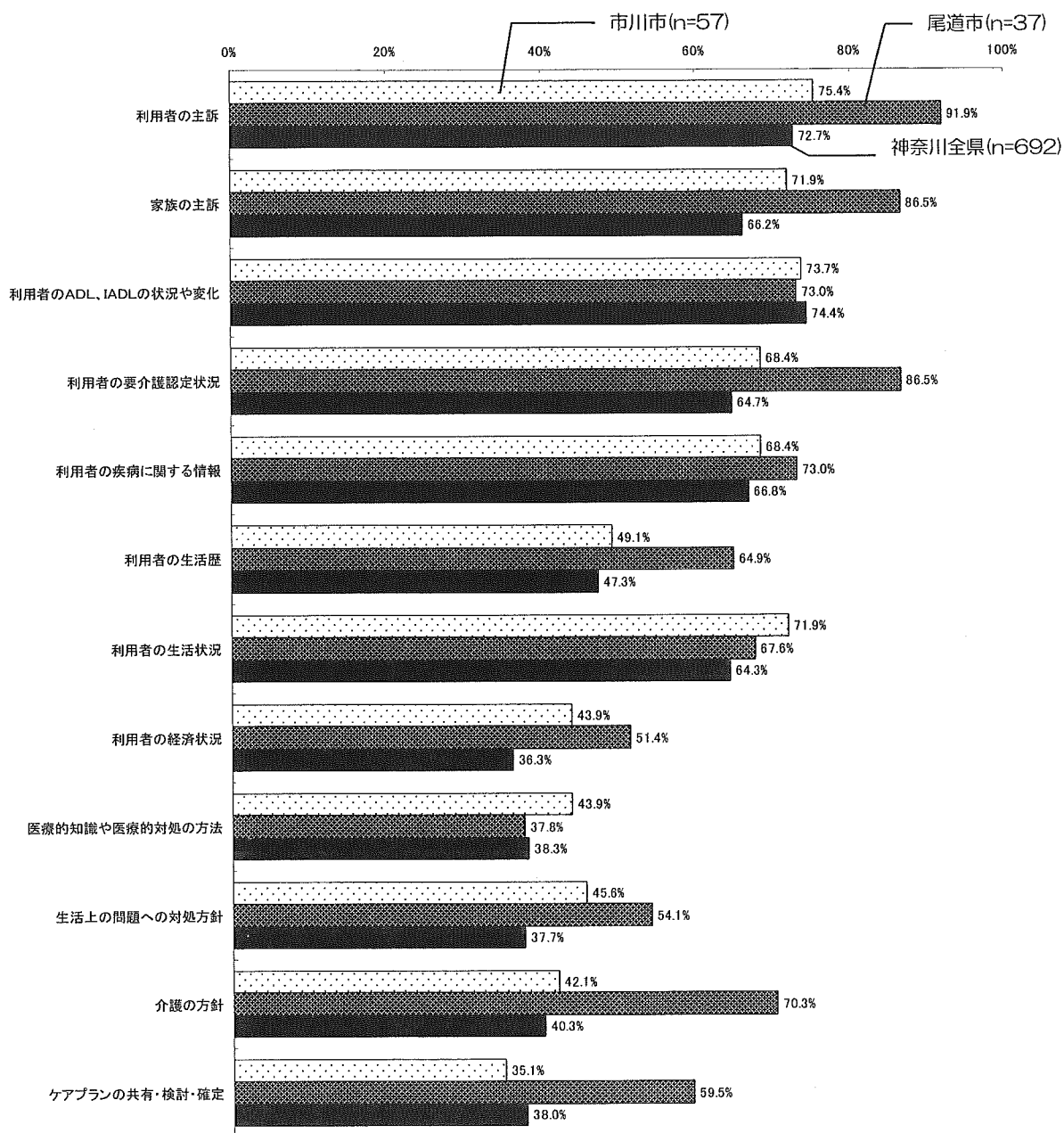
注) 平成 17 年 10 月中、利用者と家族が出席したサービス担当者会議がそれぞれ 1 回以上あった回答の割合を示す。

尾道市では、利用者および家族が出席したサービス担当者会議が一回以上あると答えた介護支援専門員の割合が、それぞれ 91.9%、94.6%あった。一方、神奈川県では 6 割台にとどまっており、尾道市では、ほぼすべてのサービス担当者会議に利用者と家族が出席し、一方、神奈川県ではいずれも 6 割程度の出席率にとどまっていた。

市川市は、利用者の出席した会議の割合は尾道市とほぼ同じであり、家族が出席した会議に関しては、尾道市と神奈川県の間位置する。

問 5 サービス担当者会議の開催にあたり共有した情報(平成 17 年 10 月中)【複数回答】

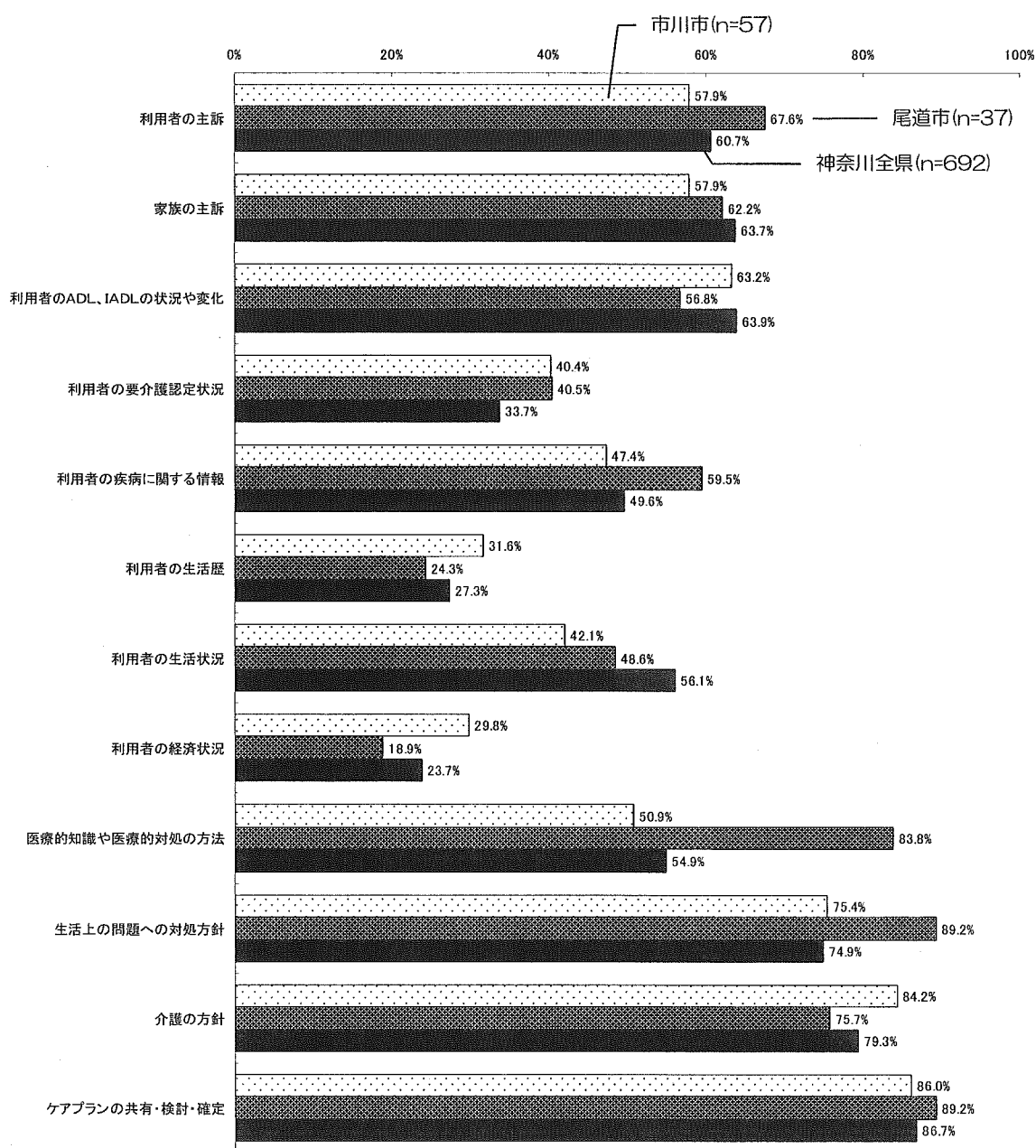
(1) 事前に共有した情報



注) 問 1 で「1 回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

市川市は、全項目で尾道市よりも、事前に情報を共有すると回答した介護支援専門員は少なく、神奈川県とほぼ同じ傾向を示した。「利用者の主訴」「家族の主訴」「利用者のよう介護状況」「利用者の生活歴」「介護の方針」「ケアプランの共有など」は、尾道市より約 15～25%低い。

(2) サービス担当者会議で共有した情報

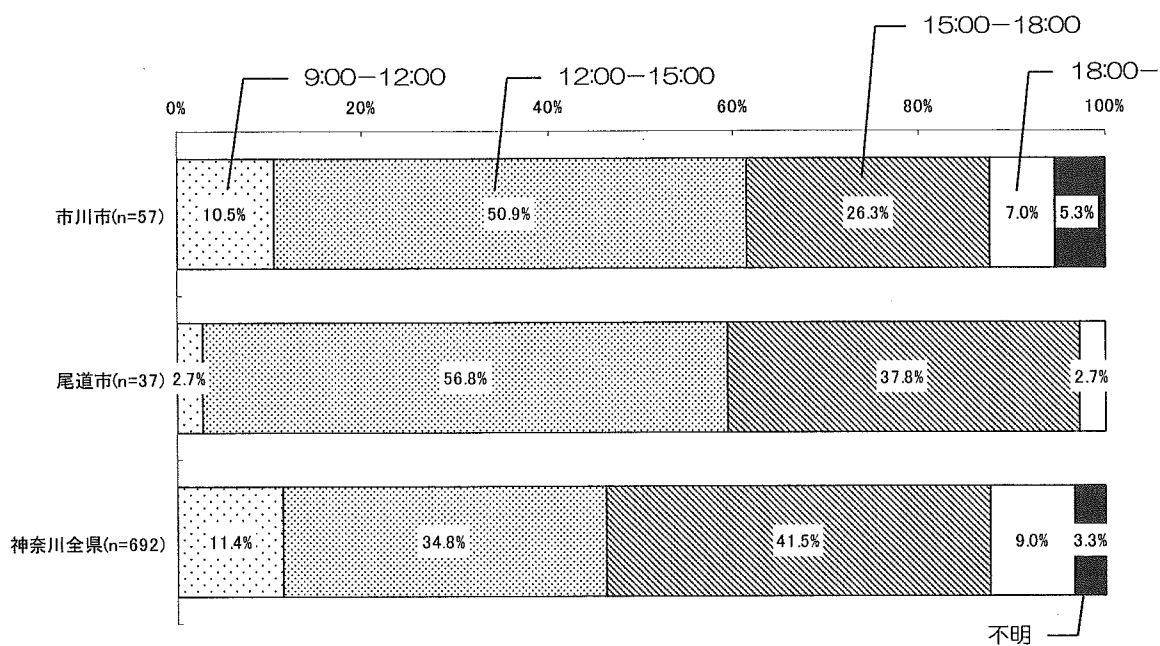


注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

市川市のサービス担当者会議において共有される主たる項目は、神奈川県とほぼ同じ傾向を示した。

「医療的知識や医療的対処の方法」「利用者の疾病に関する情報」「生活上の問題への対処方針」は、尾道市より低い。

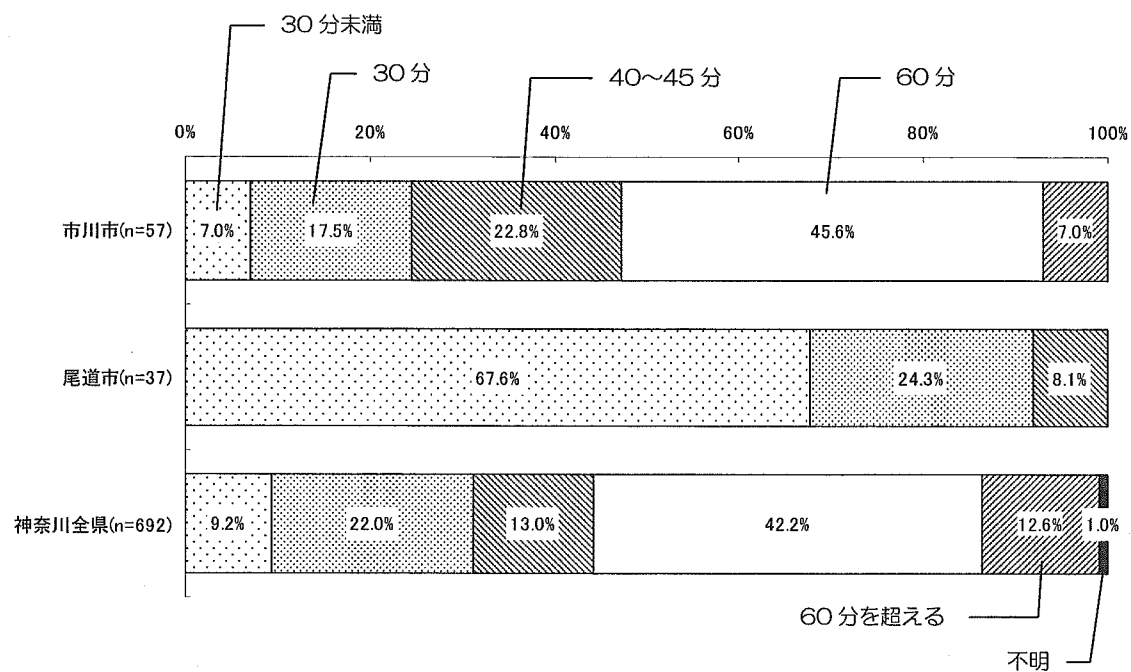
問6 もっとも多い開催時間帯（平成17年10月中）



注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

サービス提供者会議の開催時間帯で、最も多い時間帯は、市川市は12:00から15:00であり、50.9%であった。

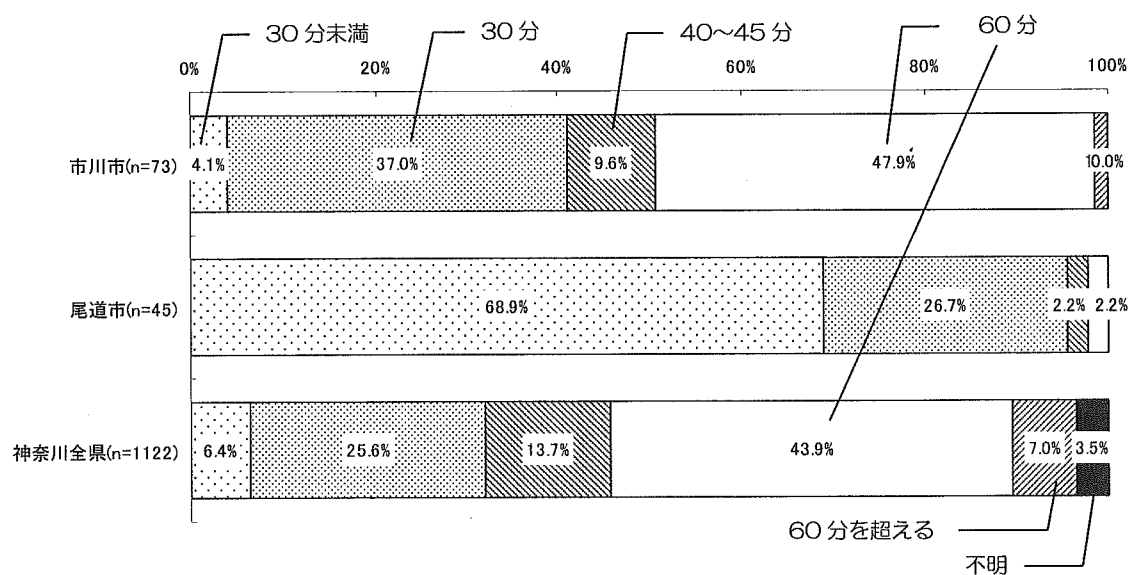
問7 サービス担当者会議の所要時間（平成17年10月中）



注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

所要時間は、市川市においては、60分が45.6%、40~45分が22.8%、30分が17.5%と、神奈川県とほぼ同じ分布であった。60分以上のサービス担当者会議が5割を超える点も神奈川県と同じである。

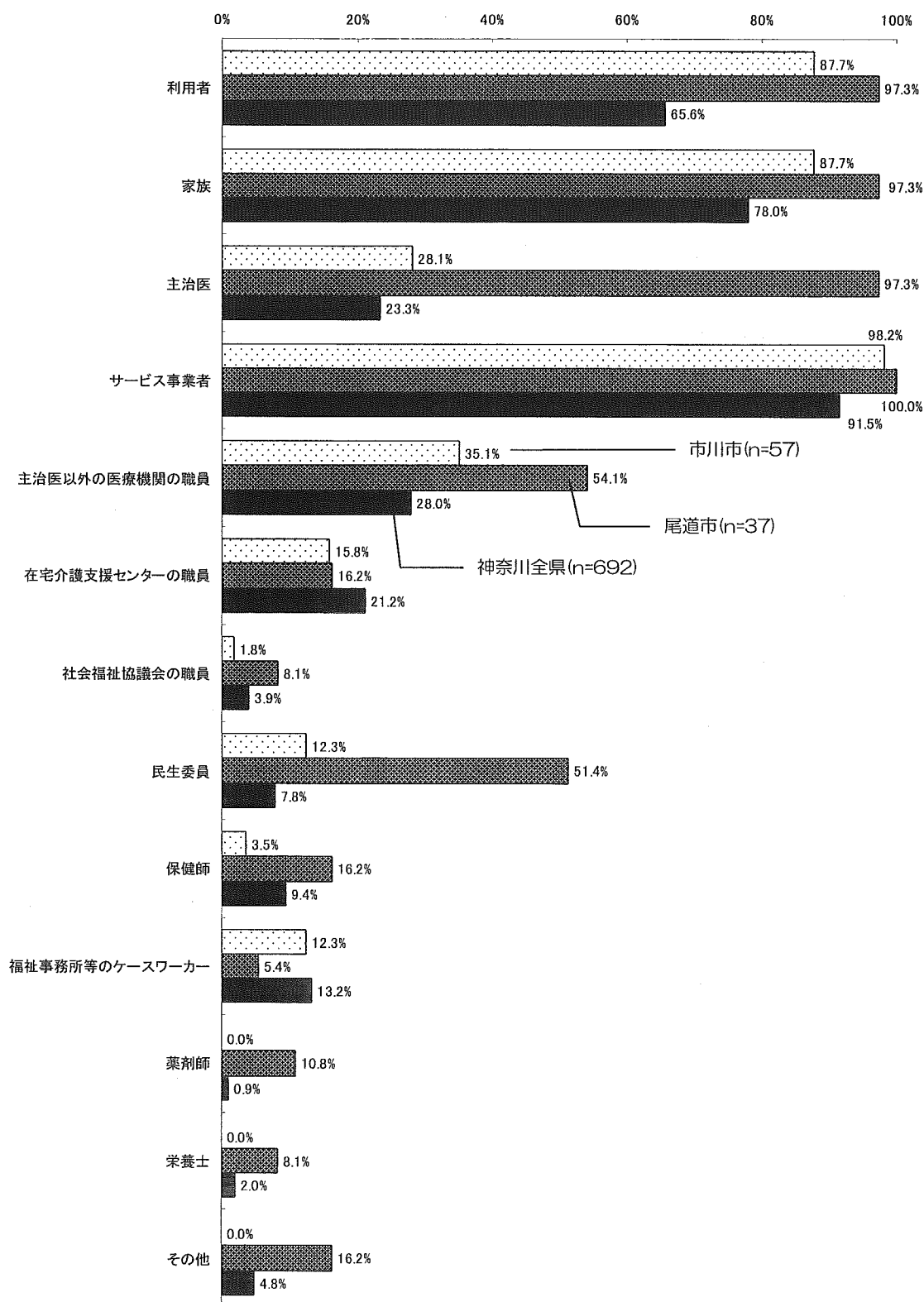
問 1 5 適切と思われるサービス担当者会議の所要時間



適切と思われるサービス担当者会議の所要時間は、現状とほぼ同じである。

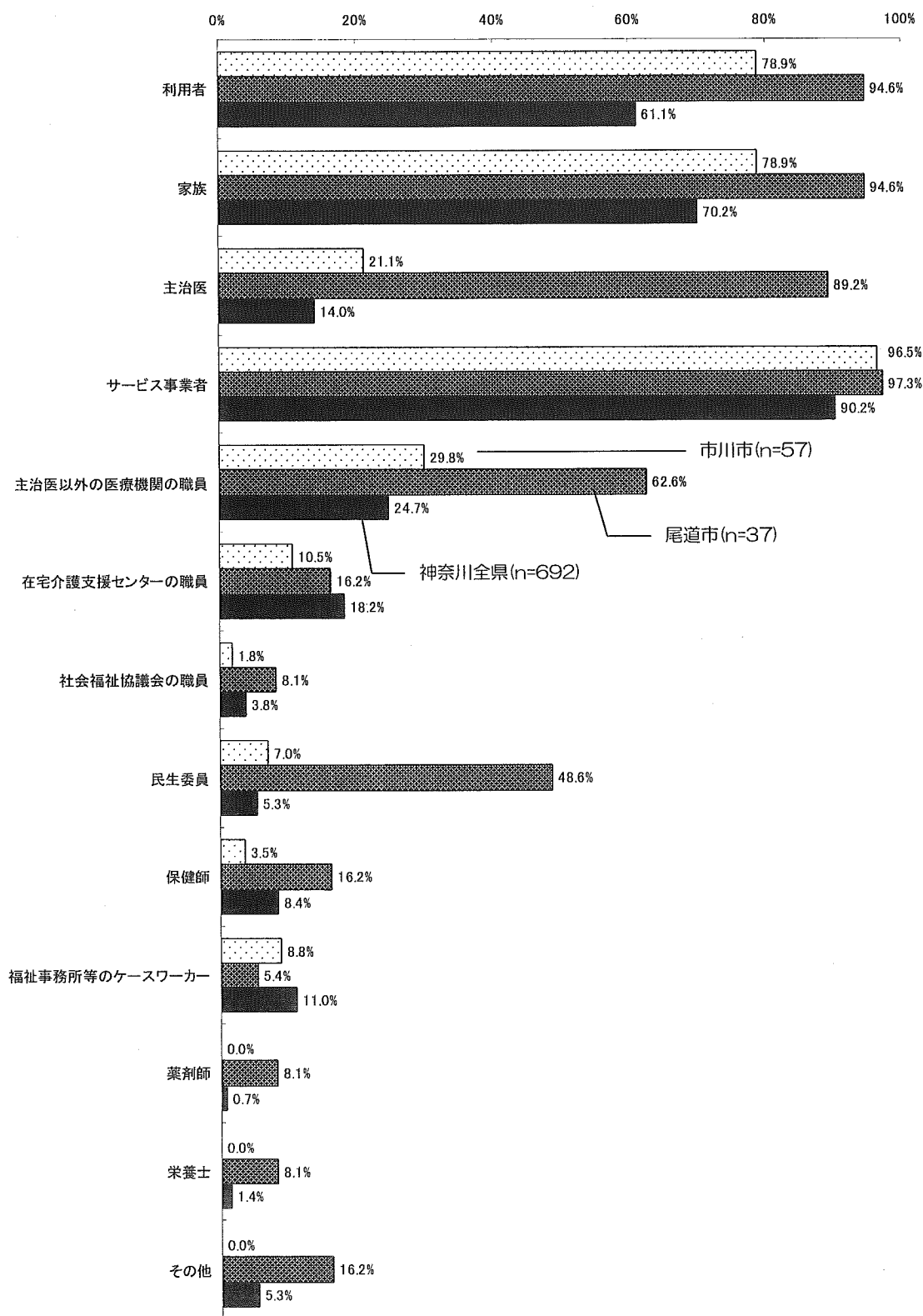
問8 サービス担当者会議の参加者（平成17年10月中）【複数回答】

(1) 参加を呼びかけた人



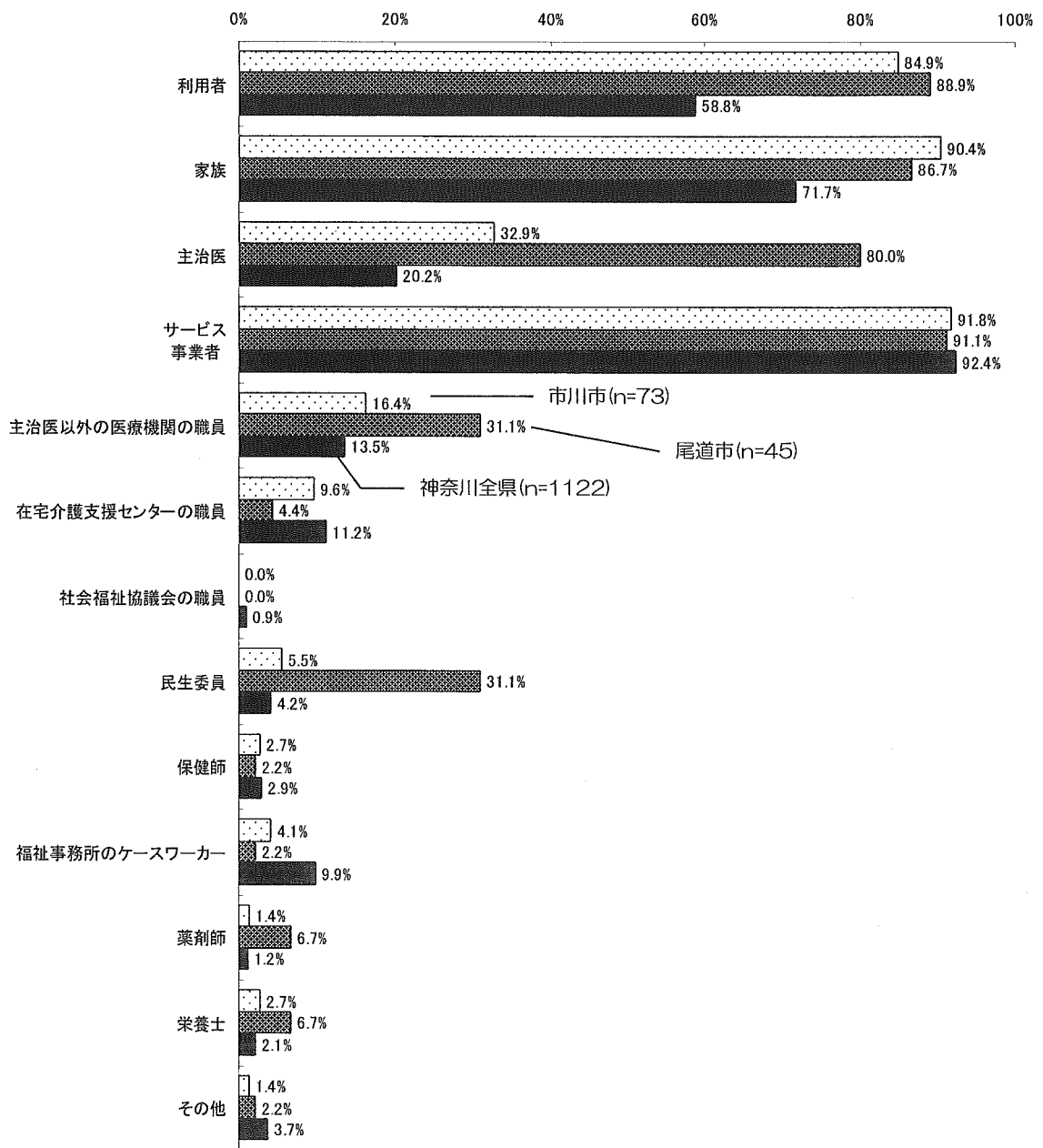
注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

(2) 実際に参加した人



注) 問1で「1回以上」の回答をしたケースのみを母数とする。

問 20 毎回出席が必要と思われる人【複数回答】



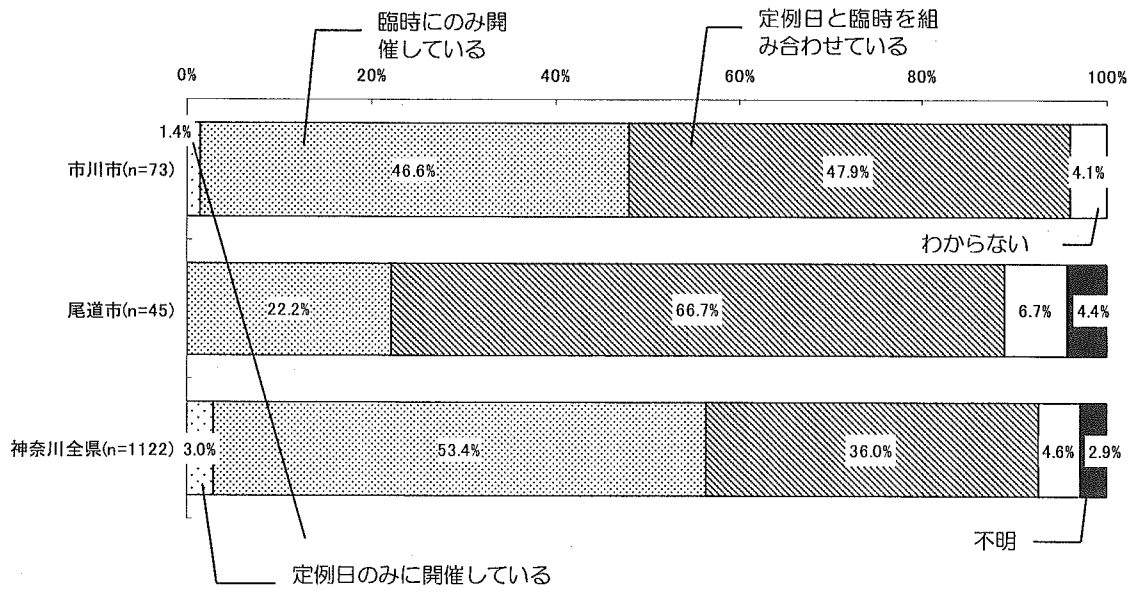
介護支援専門員が参加を呼びかけた相手を見ると、市川市は、尾道市より低い。利用者、家族、主治医、サービス事業者、主治医以外の医療機関の職員、民生委員に関しては、神奈川県より高い。

実際に参加した人を見ると、利用者、家族が神奈川県より高いが、全体として神奈川県と同じ傾向を示した。

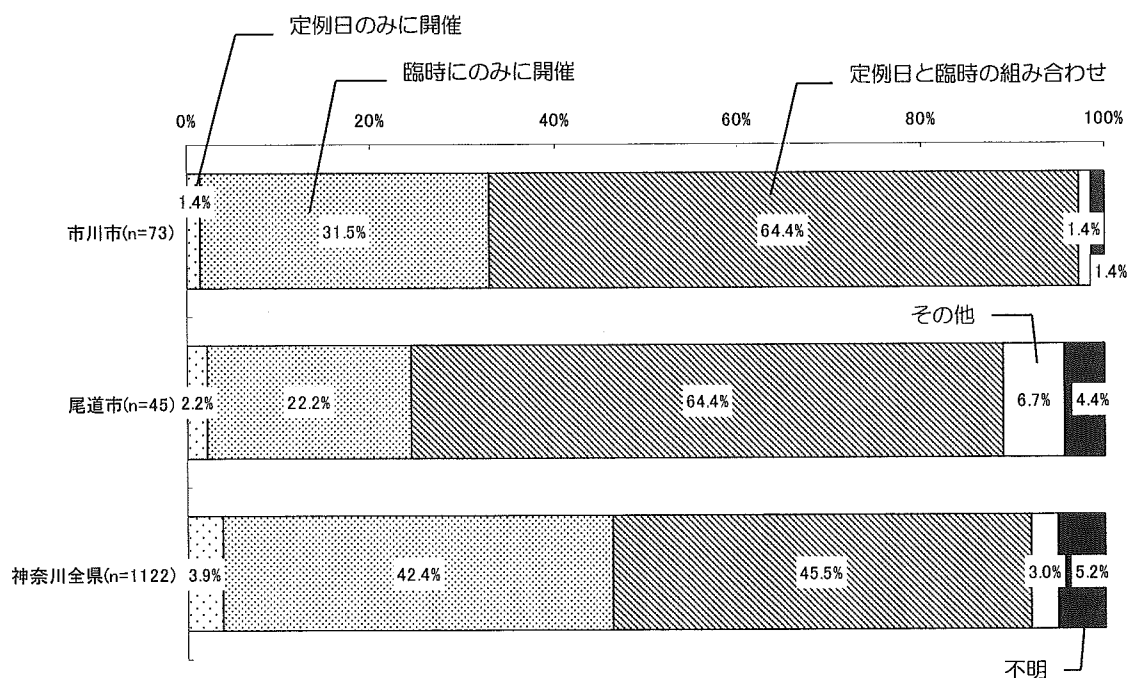
毎回出席が必要な人を見ると、利用者と家族は、神奈川県より尾道市に近く、また主治医、主治医以外の医療機関の職員、民生委員は、神奈川県と同じ傾向を示した。さらに、サービス事業者、在宅介護支援センターの職員に関しては、神奈川県よりも低い傾向にあった。

尾道市の利用者、家族、サービス事業者に加え、主治医や他の医療専門職、民生委員の参加が高いという特徴は、市川市、神奈川県とは異なる傾向である。

問9 サービス担当者会議の開催形態

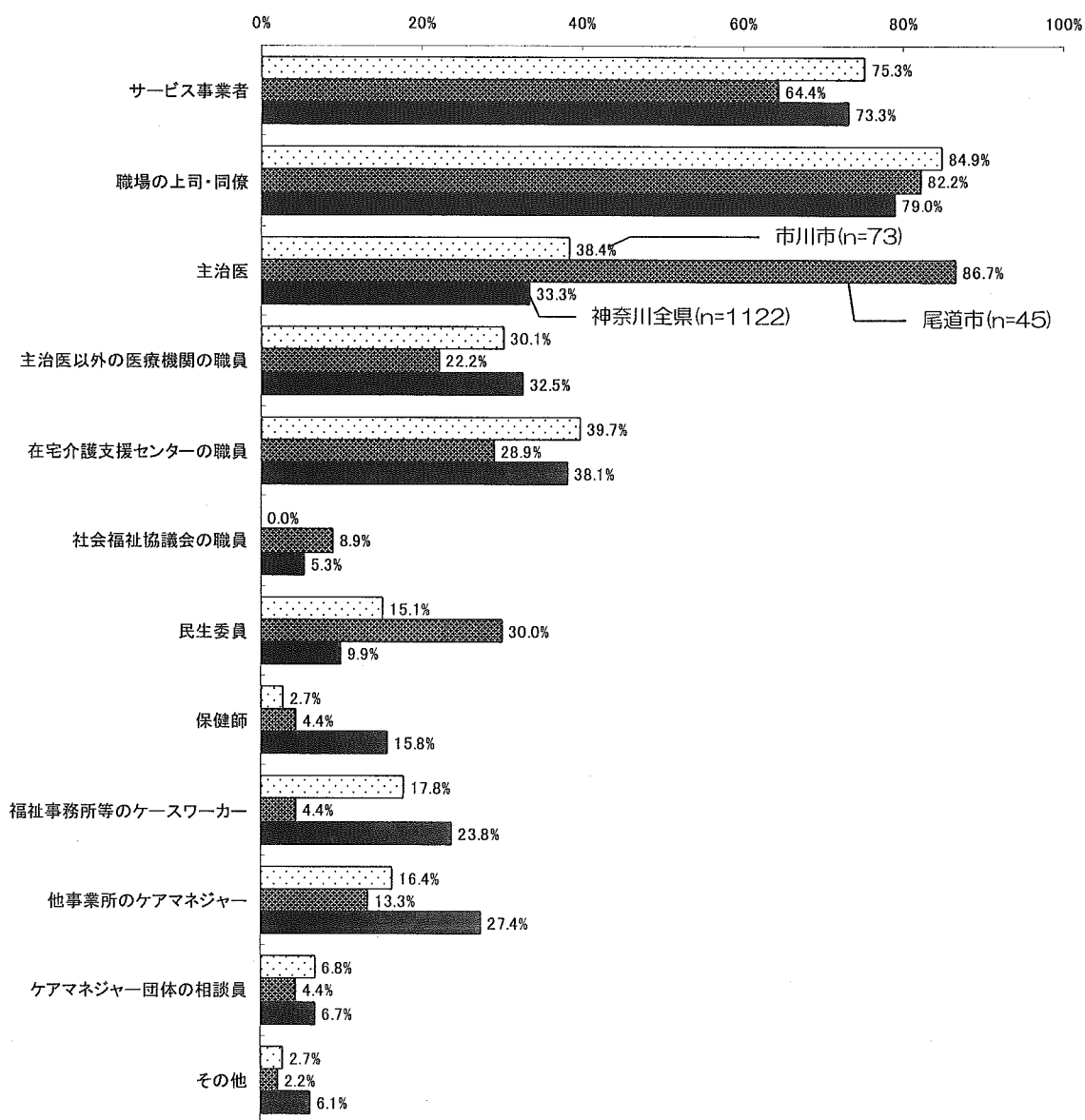


問 19 適切なサービス担当者会議の開催形態



定例日と臨時を組み合わせた方法で行っている介護支援専門員が 47.9%を占めている。これは尾道市の 66.7%より低い、神奈川県より高い。
 なお、適切な開催形態の傾向は実態と大差ない。

問10 ふだんから相談する人【複数回答】



市川市の介護支援専門員は、ふだんから相談する人は、神奈川県と同じパターンであり、尾道市のように、主治医に相談すると回答した者は、38.4%であった。民生委員も同じく、15.1%と尾道市の2分の1であった。